



[WHAT MUSEUM](#)は、学校から歩いて20分くらいのところにある、3年前にできた現代アートの美術館です。
[同じ寺田倉庫さんのWHAT CAFEでは、今年度の夏に特別講座をさせていただきました。](#)

今回は[TAKEUCHI COLLECTION「心のレンズ」展](#)の鑑賞会と、[PIGMENT TOKYO\(ピグメントーキョー\)](#)さんの画材を使った体験をさせていただきました。

ピエール・ジャンヌレ《フローティングバックチェア》の前で。

【鑑賞会】

はじめに美術館の説明を伺いました。

WHAT MUSEUMは美術館の上が倉庫になっていて、寺田倉庫さんがコレクターの方々から美術品をお預かりされているとのことでした。

今回の展覧会はWHAT MUSEUMの活動に賛同されたコレクターの方より作品を借りて展覧会を開催されているということです。

今回はIT分野で活躍されている竹内真さんのコレクションなのでTAKEUCHI COLLECTIONという名前がついています。



いよいよ展示室へ。

最初の10分間は自由鑑賞。
今回はなんと開館前に貸切状態で鑑賞させていただきました！

事前に1つ課題を出しました。

鑑賞後に、自分のお気に入りの作品を1つ、理由とともに発表する、というものです。

友だちと作品を前に楽しそうに話しながら回る方、音声ガイドを聞きながら(いつもはスマホは電源オフですが、この日は活用しました)じっくり作品の前で見入る方、みなさん中1にしてすでに楽しみ方を心得ているように見えました！

この日、実は1人の6年生が手伝いに来てくれました。

夏の特別講座を企画した井上和さんです。

5年生から美術を楽しむ人を増やすことを目標に探究を続けていて、声をかけたところ、ぜひ参加したいです！ということで、今回も準備をして来てくれました。

10分間の自由鑑賞の後は、井上さんによるミニギャラリートークです。

井上さんのお気に入りの作品の前にみんなで移動しました。

まずは井上さんのお気に入りの理由と、井上さんが調べてきた作家情報について聞きました。

作家や作品に関する知識と関係なく、この作品に惹かれました、という井上さんの言葉に続いて、1年生たちもこの作品の好きなどころを話してくれました。



1つ目は[ジャデ・ファドジュティミ《Undeclared thoughts》](#)です。

魚みたいに見えるものがあるところが好き、という人もいれば、豆のサラダに見えて、という人も！

美術館の方からは、近年とても人気のある作家ですが、みんなが好きということと関係なく、今のように自分なりの見方で好きなどころを見つけられるのが大事ですね、とお話いただきました。



2つ目は三島喜美代《Work18-CS6》。

井上さんは素材に注目しました。

金属製かと思いきや、セラミックでできているのです。

この作品が置いてあるスペースは家の中のようになっていて、話題は周囲の作品や美術館の壁の色にも及びました。

ある1年生は、自分の部屋の壁が似た色であんまり好きではなかったけれど、ここを見て好きになった、と話してくれました。

美術館の方から、この色は、展覧会のキービジュアルのメインカラーや、インドのチャンディガール都市計画をイメージして選んだ色とお話がありました。

その後、お気に入りの作品の写真を撮って、再集合。

【お気に入りの作品の発表】



参加者全員が、自分が気に入った作品とその理由を発表しました。全体の印象と部分の印象を話す人、色に注目する人、作品名に注目する人、作品の影の形に注目する人もいました。みなさん楽しみ方のポイントをたくさん心得ていますね。発表ごとに、スタッフの方から丁寧な補足説明をいただきました。それですらにみなさんの見方が広がったと思います。とても豊かな時間でした。

【画材体験】

美術館の隣にはとてもすてきな画材屋さん、PIGMENT TOKYOがあり、そちらの顔料と接着剤で絵の具をつくる体験をさせていただきました。

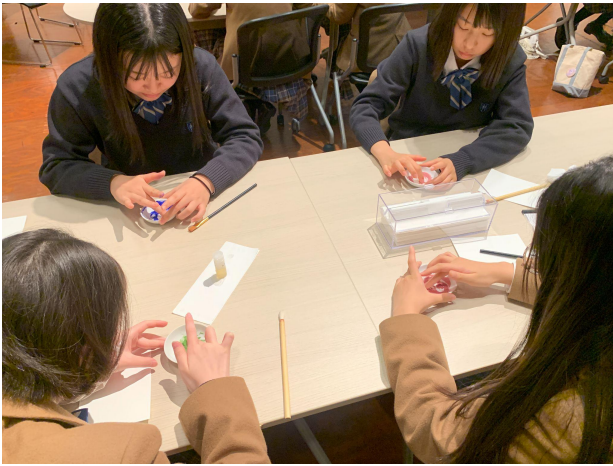
普段はチューブの絵の具しか知らないと思うので、絵の具にどんな種類があって(答えを伺う前にみんなで挙げたら全部の種類が挙がりました！)、何でできているか(ここは知らない人が多かったと思います)、興味深くご説明を聞いていました。



フェルメール・ブルーの顔料ラピスラズリが高額なことにみなさん驚いていました。なぜ作家がこれらを買っていくかという、フェルメールの作品やツタンカーメンにも使われたという歴史のある顔料を使いたいからだという事です。



同じ青でも、薄い色と濃い色は何が違うかというご質問には、さすが、6年の井上さんが粒子の細かさと当てていました。



今回は顔料に膠をたらし、指でまぜて岩絵具をつくりました。
よく混ぜるのが一番大事！と伺い、みなさんよい絵の具にするために熱心にねっていました。



水を加えて筆で画用紙に試しがき。
すてきなお土産になりましたね。

■生徒のワークシートより

Q ほかの生徒がそれぞれの気になった作品について話すのを聞いて、興味を持ったことを書いてください。

- ・それぞれ色や第一印象、形など感じ方が全然違うので、自分の好きなものを言語化することが面白いと思いました。新しい発見でした。
- ・「立体でつくられた作品は、影もふくめて一つの作品」と発言した方がいて、とても納得した。
- ・アートは人それぞれいろんなとらえ方ができるので、他の人がどう考えたのか共有する時間があって、より作品について考えることができました。

Q お世話になったみなさまに、お礼を述べましょう。

・今回の講座でこのミュージアムを選んで正解だったなと個人的には思っています。この2時間ちょっとは本当に思ったより短くて、講師の先生方の説明もとても分かりやすく、1人1人の意見に対してコメントやアドバイスなども加えてくださったり、ワークショップの時に分からないことがあったとき、とっても聞きやすい環境になっていて、とても「アート」っていう物に興味を持つきっかけになりました。元々答えのないものを考えるのは、本当に大好きだったので、そういうことができるとても楽しかったです。ありがとうございました。

＊ ＊ 過去11回の様子 ＊ ＊

2007年度 教科イチオシ見学会①森美術館

2008年度 今日のお客様&教科イチ押し 22 森美術館

2009年度 春期講習・教科イチ押し森美術館

2010年度 気になる声シリーズ⑥教科イチオシ見学会【森美術館】

2011年度 17 教科イチ押し見学会(森美術館)

2012年度 本を出版しました。15 教科イチ押し見学会(森美術館)

2014年度 中 1 国語科特別講座・森美術館

2014年度 教科イチ押し見学会(森美術館)

2018年度 ⑭教科イチ押し【森美術館】

2020年度 ⑩教科イチ押し見学会【森美術館】

2022年度 生成AI・デジハリ見学・関連書籍